

あすなる

＝発行＝
宮古島市立
平良中学校
進路担当：川満洋平

誰かの名言

◆一度きりの人生、投げ出すな。運命は変えられる。

県立高校入試Web出願システム

アカウント登録が始まりました。

沖縄県立高校入試へ向けて、Web出願システムのアカウント登録期間が始まりました。個人のメールアドレスが必要となるため、各ご家庭で進めていただきます。志望校が決まっていなくても、住所や保護者情報を入力する必要があるので、早めにアカウント登録を行い、入力を進めてください。システム登録後に届くメールに記載されたIDとパスワードを控えておくようお願いいたします。アカウント登録の方法については、平良中学校のWebにマニュアルを掲載してあります。ご覧になりながら進めてください。進めることが困難な場合は、担任へ早めにご相談ください。

また、各高校のWebに入試要項が掲載され始めました。入試の日程や内容、特色選抜の実績の点数や、独自検査の内容が書かれています。11月中にはどの高校も掲載する流れになっていきますので、志望する高校の学科が何名枠があるのかも、各自意識してチェックして下さい。

志願変更について

さて、県立高校の一般選抜では、「志願変更」のチャンスが一回あります。その志願変更の注意点について述べてみますので、しっかり読んで下さい。

- ① 第一志望だけ、あるいは第二志望だけでも変更できる。
- ② 第二志望だった科を第1志望に繰り上げることもできる。
- ③ 志願変更したいと申し出てもできないこともある。例えば、10名オーバーしている科から12名の生徒が志願変更を申し出たとすると、その時には、抽選などで10名だけに志願変更を許可する。
- ④ 初め第二志望を書いてない場合、志願変更の際に追加することもできる。

Ⅱ 再確認Ⅱ自分が志願した科またはコースで定員オーバーしていないと志願変更はできない。

1・2年生へ

注意

沖縄県立高校入試の調査書(皆さんの成績や欠席状況実績等)を書いた書類(欠席理由は、欠席などの理由を「病欠」「事故欠」「事故欠」に分けて書きます。「病欠」の場合は「理由を書きません」が、事故欠の理由

「家事都合」や「無届」など、理由を明記します。意識せず過ごすと受験時に困ります。高校によっては、無届欠席を5回以上行っている場合、合格圏内から圏外へ外す。といった内容が募集要項へ明記されている場合もあります。気を付けましょう。

他にも私立高校と県立高校ともに、評定平均が〇〇以上ないと推薦や特色選抜は受験できない。といった決まりがあります。沖縄尚学高校を例にだすと、推薦入試を受験する場合、尚学パイオニアコースαは評定平均4以上。尚学パイオニアコースβは3以上の生徒が出願できるというような決まりがあります。1、2年生は、未来の自分の足を引っ張らないように、今のうちから成績を上げる努力をしましょう。今頑張れば、未来の自分が楽できます。自分のために頑張ってみよう。



悪口を言うやんクエーになる

中谷彰宏著「高校受験 すぐにできる④のこと」より

受検を楽しく成功させるには、親と先生を味方にする事です。アウエーではなく、ホームにするのです。親も先生も味方です。志望校に通るように願ってくれます。ところが、親と先生を敵と感じると、精神的なストレスが生じます。生を敵と感じると、精神的なストレスが生じます。生を敵と感じると、精神的なストレスが生じます。



生を敵だと思ひ込んでしまうのです。※この話と裏面の話を合わせると、親や先生の悪口を言っている人に、「だよね」などと調子を合わせていると、どんどん悪い方向に向かっていくということでしょうね。

2割の善玉菌で居続ける決意

NPO法人「読書普及会」の理事長、清水克衛さんのお話です。

生き物の世界には2対6対2の法則がある。2つの「2」は対極をなし、「6」はどちらか勢力の強い方になりびいていく。

たとえば、細菌の世界では、2割の善玉菌と2割の悪玉菌、そして6割の日和見菌がいる。善玉菌が強いと6割は善玉菌になびき、8割が善玉菌になる。それが「発酵」である。だが、2割の悪玉菌が強いと6割はそっちになびき、8割が善玉菌となる。それが「腐敗」だ。

人間界で言えば、マスコミが「不況です」「大変です」と言い続けると、6割の大衆は口を揃えて、「うちも不景気だ」「うちも大変だ」と大合唱。その結果、国内の8割の勢力が「大変だ、大変だ」というムードになっていく。

清水さんは「2割の善玉菌で居続けよう。そのためには固い意志が必要だ」と言う。誰かが「今は不況だ大変だ」と言っても、「そうですよね」と答えてはいけない。絶対に流されない決意が必要である。誰がなんと言おうと、「不況がどうした!」「売上げが下がっても俺のテンションは下がらない」「勝利のVという字を見してみい。勝利するためには一度どん底まで下がって落ちなきゃいけないんだ」みたいな脳天気なことを言い続ける覚悟がないと、2割の「善玉菌」で居続けることはできない。

人生には運氣というものがある。世の中の「悪玉菌」になびいて運氣が下がると、ツイてないことが複合的に起こる。しかし、2割の「善玉菌」で居続ける覚悟をすると運氣は間違いなく上がる。運氣が上がれば、どんなマイナスな状況でも物事が不思議と好転していく。成績が上がったり、いい人間関係に恵まれたり。

運氣を上げるきっかけの一つに、「頼まれごとを喜んでやる」というのがある。たとえば、先生に「〇〇さん、ちょっとこれを手伝って下さい」と頼まれたとする。それを喜んでやると、また頼まれるようになる。「頼まれやすい人、頼りになる人」になると、その人の名が教室でどんどん呼ばれるようになる。そうすると上昇気流に乗るように運氣がどんどん上がっていく。

ところが、「なんでいつも私ばかり…」と愚痴を言い始めると眉間にシワができ、ブスッとした表情になる。そうすると誰からも頼まれごとをされなくなり楽になるが、同時に運氣はどんどん下がっていくという。

もう一つ、運氣が上がるコツは笑顔。意識して口角を上げているとニコニコしているように見えて、だんだん人相がよくなる。人相が良くなると、間違いなく運氣が上がる。

江戸時代に、「稼ぎ3割、仕事7割」という言葉があった。「稼ぎ」とは、今で言えば現金収入につながる商売であったり、給料をもらう業務のこと。それに対して「仕事」というのは、地域のボランティアのことだった。壊れた橋があれば修理に行ったり、お年寄りの具合を見に行ったり、一銭にもならないけれど、人のため、地域のために一肌脱いで汗を流す、一銭にもならないことだけど、やがてそれは「徳積」という形で本人に還元され、良い人間関係や商売繁盛に恵まれていったそう。

以上が清水さんのお話。

学校生活の中でも、一人ひとりが「善玉菌」でいる意識を持てば、授業中のクラスの雰囲気も良くなり、自然と成績も上がってくるでしょう。また、クラス全体の運氣も上がることで、学級の絆も強くなり楽しい学校生活が過ごせる。各クラスの運氣が上がると学年全体の運氣も上がり、来年の3月には、みんなが希望する進路に進めるということにつながっていくでしょうね。